

ApresiaLightGS シリーズ ファームウェア

リリースノート

APRESIA Systems 株式会社

制定・改訂履歴表

No.	年 月 日	内 容
-	2019年 1月 25日	新規制定(Ver.1.00.00 対応)
A	2019年 6月 24日	Ver.1.01.00 対応 適用機種追加(ApresiaLightGS110GT-PoE, ApresiaLightGS120GT-PoE, ApresiaLightGS128GT-PoE) 技術サポート情報取得機能対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10000-ER001,ER002,ER003
B	2019年 11月 29日	Ver.1.01.01 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10101-ER001 - APLGS-10100-ER001,ER002 - APLGS-10000-ER004~ER012
C	2020年 5月 28日	Ver.1.01.02 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10101-ER002 - APLGS-10100-ER003,ER004 - APLGS-10000-ER013~ER018 注意事項の情報追加 - APLGS-10000-NT003
D	2020年 6月 11日	既知問題の識別番号の誤記を修正 (APLGS-10000-RC013→APLGS-10101-RC013)
E	2020年 8月 21日	Ver.1.01.03 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10102-ER001 - APLGS-10101-ER003
F	2020年 9月 8日	既知問題、注意事項の発生バージョンの誤情報を修正 (APLGS-10000-ER012、ER018 および APLGS-10000-NT003)
G	2021年 2月 3日	Ver.1.01.04 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10000-ER019~ER023 注意事項の情報追加 - APLGS-10000-NT004
H	2021年 8月 20日	Ver.1.02.00 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10104-ER001 - APLGS-10100-ER005 - APLGS-10000-ER024

No.	年 月 日	内 容
I	2022年 1月 7日	Ver.1.02.01 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10200-ER001 - APLGS-10000-ER024～ER030
J	2022年 10月 26日	Ver.1.03.00 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10101-ER004 - APLGS-10100-ER006, ER007 - APLGS-10000-ER031～ER037
K	2023年 9月 15日	Ver.1.04.00 対応 冒頭の「はじめに」に「ファームウェアのアップグレードパスについて」の記載を追加 既知問題の情報追加 - APLGS-10000-ER038～ER041 注意事項の情報追加 - APLGS-10000-NT005
L	2024年 9月 17日	Ver.1.04.01 対応 適用機種追加(ApresiaLightGS120GT-SS2, ApresiaLightGS128GT-SS2, ApresiaLightGS152GT-SS2, ApresiaLightGS110GT-PoE2, ApresiaLightGS120GT-PoE2, ApresiaLightGS128GT-PoE2) 既知問題の情報追加 - APLGS-10400-ER001 - APLGS-10000-ER042～ER044

はじめに

本リリースノートは、ApresiaLightGS シリーズのファームウェアについて説明するものです。ファームウェアに関する重要な情報が記載されていますので必ずお読みください。

◆対象バージョン

本リリースノートの対象バージョンは Ver.1.00.00～1.04.01 です。

ApresiaLightGS シリーズ製品のファームウェアバージョンを確認するには、Web ブラウザで装置にアクセスし、ログイン後に表示される [機器情報] ページのバージョン情報をご覧ください。

最新リリースバージョン	Ver.1.04.01
前回リリースバージョン	Ver.1.04.00

◆ファームウェアのアップグレードパスについて

ApresiaLightGS シリーズのファームウェアでは基本的にアップグレードパスはなく、離れたバージョン番号のファームウェアの書き込みを行うことができます。ただし稼働中のファームウェアが Ver.1.00.00、もしくは Ver.1.01.00 の場合、Ver.1.04.00 以降のファームウェアの書き込みが制限されていますので、Ver.1.01.01～1.03.00 のいずれかのファームウェアで装置を起動してから対象バージョンのファームウェアの書き込みを実施してください。

◆適応機種一覧

シリーズ名称	製品名称
ApresiaLightGS シリーズ	ApresiaLightGS110GT-SS, ApresiaLightGS120GT-SS, ApresiaLightGS120GT-SS2, ApresiaLightGS128GT-SS, ApresiaLightGS128GT-SS2, ApresiaLightGS152GT-SS, ApresiaLightGS152GT-SS2, ApresiaLightGS110GT-PoE, ApresiaLightGS110GT-PoE2, ApresiaLightGS120GT-PoE, ApresiaLightGS120GT-PoE2, ApresiaLightGS128GT-PoE, ApresiaLightGS128GT-PoE2

◆対応バージョン一覧表

各製品の対応バージョンを以下に示します。対象となる製品には、対応バージョン以外のファームウェアをダウンロードしないでください。

製品名称	対応バージョン
ApresiaLightGS110GT-SS, ApresiaLightGS120GT-SS, ApresiaLightGS128GT-SS, ApresiaLightGS152GT-SS	Ver.1.00.00～1.04.01
ApresiaLightGS110GT-PoE, ApresiaLightGS120GT-PoE, ApresiaLightGS128GT-PoE	Ver.1.01.00～1.04.01

ApresiaLightGS120GT-SS2, ApresiaLightGS128GT-SS2, ApresiaLightGS152GT-SS2, ApresiaLightGS110GT-PoE2, ApresiaLightGS120GT-PoE2, ApresiaLightGS128GT-PoE2	Ver.1.03.00~1.04.01
---	---------------------

◆輸出する際のご注意

本製品や本資料を輸出または再輸出する際には、日本国ならびに輸出先に適用される法令、規制に従い必要な手続きをお取りください。

ご不明な点がありましたら、販売店または当社の営業担当にお問い合わせください。

◆商標一覧

Apresia は、APRESIA Systems 株式会社の登録商標です。

その他ブランド名は、各所有者の商標もしくは登録商標です。

APLGS Ver.1.04.01 リリース情報(2024 年 9 月)

○ 仕様変更

本バージョンでは、以下の仕様変更を実施しています。

APLGS-10401-RC001

内容 [ネットワーク]>[ポート設定]画面の操作で、リンクアップ状態のポートに対して[ポートの説明]の設定変更を行うと、ポートのリセットが発生して一度リンクダウン状態になる動作でしたが、[ポートの説明]以外の設定変更がない場合にはリセットが発生しないように動作を変更しました。

関連 -

APLGS-10401-RC002

内容 装置へのログイン、ログアウト、ログイン失敗のシステムログの記載内容を一部変更しました。

関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10401-RC003

内容 装置が特定の IP アドレスを持つ端末に対して TCP/IP 通信ができない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER042

APLGS-10401-RC004

内容 MAC アドレス認証において、参照する RADIUS サーバーが複数登録されている場合に RADIUS サーバーの切り替えが頻発して、認証フレームの重複や認証属性情報の消失が発生し、認証ユーザーの通信が不安定になる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER043

APLGS-10401-RC005

内容 装置の稼働時間が約 248 日を経過すると誤表示する問題を修正しました。なお、装置の稼働時間は 32bit カウンターが使用されていますので、約 497 日で稼働時間がリセットされるのは仕様動作です。

関連 APLGS-10000-ER044

APLGS-10401-RC006

内容 IGMP スヌーピング機能において、クエリア機能を有効にした場合に、最大応答時間を 13 秒以上に設定すると、IGMPv3 クエリーで誤った値を通知してしまう問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER012

APLGS-10401-RC007

内容 TELNET/SSH でのコマンドのアクセスにおいて、未サポートの機能に関する情報が表示される問題を修正しました。

関連 APLGS-10400-ER001

APLGS-10401-RC008

内容 脆弱性 CVE-2023-5678 の対策を行いました。

関連 -

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.04.00 リリース情報(2023年9月)

○ 機能サポート

本バージョンで追加した機能の詳細は、関連する「ユーザーズガイド」も併せてご参照ください。

APLGS-10400-RC001

内容 PoE 機能で電源を供給しているデバイスの状態を監視する PD モニタリング機能を実装しました。PD モニタリング機能は PoE 対応機種のみ動作します。

関連 -

APLGS-10400-RC002

内容 TLS1.3 に対応しました。

関連 -

○ 仕様変更

本バージョンでは、以下の仕様変更を実施しています。

APLGS-10400-RC003

内容 ACL 機能において、L3 ACL で IPv6 パケットにルールを適用した際に、IPv6 近隣検索プロトコル (NDP) を含む ICMPv6 マルチキャストパケットに対してブロックのアクションを行わない仕様としていましたが、装置の IPv6 インターフェースが無効の場合には該当するパケットもブロックを行うように変更しました。

関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10400-RC004

内容 Telnet/SSH による複数の同時アクセスとコマンドの操作が行われた場合の処理でリソースの解放に失敗し、同じケースが累積すると Telnet/SSH でのアクセスが行えなくなる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER038

APLGS-10400-RC005

内容 CPU 処理を行うフレームを大量に受信して過負荷の状態になると、負荷が解消された後も CPU 処理を必要とする管理通信やポートアクセス認証などの機能の応答が大幅に遅延する問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER039

APLGS-10400-RC006

内容 SNTP 機能において、リンクダウン等により時刻照会のフレーム送信に失敗すると、それ以降は復旧しても時刻同期が再開されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER040

APLGS-10400-RC007

内容 SNTP 機能において、SNTP サーバーのドメイン名で指定した状態で、時刻モードをローカルと SNTP で切り替える操作を約 10 回以上繰り返すと、時刻同期が正常に行われない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER041

APLGS-10400-RC008

内容 脆弱性 CVE-2023-0286、CVE-2022-4304、CVE-2023-0215、CVE-2022-4450、CVE-2023-0465、CVE-2023-3446、CVE-2023-3817 の対策を行いました。

関連 -

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10400-ER001

内容 TELNET/SSH でのコマンドのアクセスにおいて、未サポートの機能 (PD モニタリング機能) に関する情報が表示される問題があります。

対象 Ver.1.04.00

修正 Ver.1.04.01 (APLGS-10401-RC007)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER042~ER044

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.03.00 リリース情報(2022 年 10 月)

○ 機能サポート

本バージョンで追加した機能の詳細は、関連する「ユーザーズガイド」も併せてご参照ください。

APLGS-10300-RC001

内容 TLS1.2 に対応しました。
関連 -

APLGS-10300-RC013

内容 対応する製品を追加しました。詳細は巻頭の「適用機種一覧」及び「対応バージョン」一覧をご確認ください。
関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10300-RC002

内容 Web UI の操作によりマルチキャスト VLAN アソシエートグループでプロファイルを登録/削除する際に、所定のプロファイルが登録できない、あるいは登録されたプロファイルが意図せず削除される問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER031

APLGS-10300-RC003

内容 L2 ACL のルールを 65 個以上登録できない問題を修正しました。本修正により、L2 ACL のルールを 128 個まで登録可能です。
関連 APLGS-10000-ER032

APLGS-10300-RC004

内容 IPv6 ネイバーの登録がエントリー上限まで行われなかったことがある問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER033

APLGS-10300-RC005

内容 1 個の ACL プロファイルに登録された ACL ルールの登録数が増えると、該当プロファイルのルール登録画面で Web UI の応答が遅くなる問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER034

APLGS-10300-RC006

内容 ポートアクセス認証でサブリカントモードをシングルに選択した場合に、認証サーバーへの問い合わせが行われない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER035

APLGS-10300-RC007

内容 統計情報のエラー統計情報のカウンターが正しく表示されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER036

APLGS-10300-RC008

内容 ARP エージング時間を 5 分に設定すると、設定を保存しても再起動後にデフォルト値の 20 分に戻る問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER037

APLGS-10300-RC009

内容 PoE スケジューリングがポートの割り当て順で 10 個までしか動作しない問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER006

APLGS-10300-RC010

内容 技術サポート情報のカウンター情報で負の数字が表示されることがある問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER007

APLGS-10300-RC011

内容 Web UI の操作でマルチキャスト VLAN プロファイルを登録上限数まで登録できない問題を修正しました。

関連 APLGS-10101-ER004

APLGS-10300-RC012

内容 脆弱性 CVE-2022-0778 に相当するソフトウェアモジュールを予防措置として修正しました。なお、これまでリリースされているすべてのバージョン (Ver.1.00.00～Ver.1.02.01、本バージョン含む) において、該当する部分は使用していませんので、製品として本脆弱性には該当しません。

関連 -

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER038～ER044

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.02.01 リリース情報(2022 年 1 月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10201-RC001

内容 脆弱性 CVE-2021-3712 の対策を実施しました。
関連 -

APLGS-10201-RC002

内容 ポートアクセス制御機能において、ポート個別の設定でポート認証設定を auto に変更した状態で、グローバル設定のポートアクセス制御機能を無効にすると、該当するポートで通信が不可となる問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER025

APLGS-10201-RC003

内容 リンクアグリゲーション機能において、メンバーポートの切断や追加などのリンクアグリゲーションの状態変化が行われた場合に、一部の通信が長期間復旧しない問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER026

APLGS-10201-RC004

内容 SSH による装置へのログイン、ログアウトのアクセスが累積すると、Telnet/SSH による装置へのアクセスができなくなる問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER027

APLGS-10201-RC005

内容 HTTPS でのアクセスが累積すると、装置へのアクセスができなくなる問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER028

APLGS-10201-RC006

内容 ACL 機能において、[ACL 詳細設定]ページで L3 ACL のルールを登録、編集する際に、特定のネットワークアドレスでのルールを設定できない問題を修正しました。
関連 APLGS-10000-ER029

APLGS-10201-RC007

内容 マンションモードの各ポートの設定欄の最大入力長を 146 文字に拡張しました。
関連 APLGS-10000-ER030

APLGS-10201-RC008

内容 ポートアクセス制御機能で 802.1X 認証を使用すると、EAP-TLS で認証を行うサブ
リカントの一部で認証に失敗する問題を修正しました。
関連 APLGS-10200-ER001

○ 仕様変更

本バージョンでは、以下の仕様変更を実施しています。

APLGS-10201-RC009

内容 ACL 構成ウィザードにおいて、登録済の L2 プロファイルと同じプロファイルを使
用するプロファイルとルールを登録する場合に、登録済のプロファイルを使用する
ように変更しました。
関連 -

APLGS-10201-RC010

内容 ACL のアクションで DSCP 変更を適用した場合のパケットの優先制御について、
DSCP 値に割り当てた CoS に従うように変更しました。
関連 -

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER031～ER044

APLGS-10100-ER006, ER007

APLGS-10101-ER004

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.02.00 リリース情報(2021 年 8 月)

○ 機能サポート

本バージョンで追加した機能の詳細は、関連する「ユーザズガイド」も併せてご参照ください。

APLGS-10200-RC001

内容 装置の管理用アカウント（ユーザー名）に対してパスワードが設定されていない場合、該当するアカウントで Web UI にログインした際にポップアップで警告する機能を実装しました。また、Telnet/SSH でログインした際にも警告メッセージが表示されます。

関連 -

APLGS-10200-RC002

内容 アクセスリスト機能において、アクションに CoS 値のリマークを行う機能を追加しました。

関連 -

APLGS-10200-RC003

内容 Telnet/SSH でアクセスした際に使用できるコマンドで、次回起動時の設定を指定する「config conf-file」コマンドを実装しました。

関連 -

APLGS-10200-RC004

内容 装置の簡易的なキッティングを行う IP Setting Tool のアクセスを制限する機能を追加しました。

関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10200-RC005

内容 ポートの EAP 透過の設定が有効か無効かによらず、受信した EAP 要求フレームが転送される問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER023

APLGS-10200-RC006

内容 ApresiaLightGS152GT-SS において、ループ検知フレームの送信数が多い場合に、装置へのアクセスができなくなる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER024

APLGS-10200-RC007

内容 PoE 給電機能を備える機種において、所定の期間の電源断（瞬停）が発生した場合に、装置の再起動後に PoE 給電が動作しない問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER005

APLGS-10200-RC008

内容 ストームコントロール機能における設定値が Web UI で正しく表示されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10104-ER001

○ 仕様変更

本バージョンでは、以下の仕様変更を実施しています。

APLGS-10200-RC009

内容 SNMP エージェント機能の初期設定値を無効に変更しました。

関連 -

APLGS-10200-RC010

内容 ファンを実装する機種において、ファンの自己診断機能の動作を改善しました。これにより、詳細な自己診断のためのファンの間欠的な高速回転の頻度が低減します。

関連 -

APLGS-10200-RC011

内容 ポートアクセス制御機能において、MAC 認証の有効期限を規定しました。従来は、再認証間隔で MAC 認証エントリーが自動更新されていましたが、この変更により再認証間隔を経過すると MAC 認証エントリーが失効します。

自発的にフレームを送信しないノード（例えばプリンターなど）が MAC 認証を行った場合、従来はリンクダウンが発生しない限り、認証成功の状態が継続していましたが、本変更では認証状態が維持されず、MAC 認証が失効して当該ノードへの通信が不可となることがありますので、ご注意ください。

関連 -

APLGS-10200-RC012

内容 Telnet/SSH でアクセスした際に使用できるコマンドで、「download」コマンドにより設定をダウンロードした場合に、再起動を自動で実行しないように変更しました。設定を反映するには、コマンドもしくは Web UI で再起動を実施する必要があります。

関連 -

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10200-ER001

内容 ポートアクセス制御機能で 802.1X 認証を使用すると、EAP-TLS で認証を行うサブリカントの一部で認証に失敗する問題があります。

対象 Ver.1.02.00

修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC008)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER025～ER044

APLGS-10100-ER006, ER007

APLGS-10101-ER004

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.01.04 リリース情報(2021 年 2 月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10104-RC001

内容 音声 VLAN 機能を有効にした場合に、音声 VLAN に指定した VLAN をスタティックでタグなし VLAN として割り当てたポート間の通信において、入力したタグなしフレームがタグ付きフレームで転送される問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER018

APLGS-10104-RC002

内容 プロトコル VLAN 機能において、以下の問題を修正しました。

- (1) プロトコル VLAN で識別されたタグなしフレームを、タグなし VLAN として割り当てたポートに転送する際に、VLAN タグ付きフレームで出力される問題。
- (2) プロトコル VLAN プロファイルで指定したフレームタイプが、受信フレームの識別の際に Ethernet II と SNAP を区別していない問題。
- (3) プロトコル VLAN プロファイルにマッチしたフレームに対して、指定した優先度が適用されない問題(ApresiaLightGS152GT-SS のみ発生)。

関連 APLGS-10000-ER019

APLGS-10104-RC003

内容 マルチプルスパニングツリー機能において、CIST のメンバーの VLAN が割り当てられていないポートでトポロジー変更を検出した時に、コンバージェンス時間が長い問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER020

APLGS-10104-RC004

内容 リンクアグリゲーション設定時に、メンバーポートのジャンボフレームやフロー制御等のポート設定を変更するとスイッチがハングアップする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER021

○ 仕様変更

本バージョンでは、以下の仕様変更を実施しています。

APLGS-10104-RC005

内容 LLDP 機能において、スイッチから送信する LLDP フレームのポート ID サブタイプ情報を「Interface Alias」から「Local」に変更しました。

関連 APLGS-10000-ER022

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10104-ER001

内容 ストームコントロール機能における設定値が、Web UI では正しく表示されない問題があります。

対象 Ver.1.01.04

修正 Ver.1.02.00 (APLGS-10200-RC008)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER023～ER044

APLGS-10100-ER005～ER007

APLGS-10101-ER004

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003

APLGS Ver.1.01.03 リリース情報(2020年8月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10103-RC001

内容 ApresiaLightGS152GT-SSにおいて、ミラーリングの設定を実施すると装置が異常状態になる問題を修正しました。

関連 APLGS-10101-ER003

APLGS-10103-RC002

内容 UDP宛先ポート番号が64516のUDPパケットに対して、ACLのDENYルールでブロックできない問題を修正しました。

関連 APLGS-10102-ER001

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER018～ER044

APLGS-10100-ER005～ER007

APLGS-10101-ER004

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003, NT004

APLGS Ver.1.01.02 リリース情報(2020年5月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10102-RC001

内容 作成した VLAN をリンクアグリゲーションのグループにタグなし VLAN のメンバーポートとして割り当てた場合に、対象ポートの PVID を割り当てた VLAN ID に自動的に変更するように修正しました。

関連 -

APLGS-10102-RC002

内容 IP アクセス制限を有効にした場合に、装置へのアクセスとインターフェースの状態確認処理が同時に行われると、デッドロックにより WEB UI へのアクセス処理など装置の CPU 処理を必要とする機能が使用できなくなる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER014

APLGS-10102-RC003

内容 UDP 宛先ポート番号が 64516 の UDP パケットを装置が受信した際に、他のポートに転送しない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER015

APLGS-10102-RC004

内容 デフォルト VLAN 以外の VLAN インターフェース上に IP アドレスを設定し、当該 IP アドレスに対して WEB 管理画面にアクセスした場合に、DHCP スヌーピング機能の信頼ポートを無効に設定できない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER016

APLGS-10102-RC005

内容 TELNET/SSH でコマンドを実行した際の一部のエラーメッセージが、WEB UI の言語設定によっては日本語で出力される問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER017

APLGS-10102-RC006

内容 TELNET/SSH のコマンドでアカウント削除を実行すると、スイッチがフリーズして再起動する問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER003

APLGS-10102-RC007

内容 リンクアグリゲーションのポート追加、削除などを実行した場合に、変更したメンバーのポートでトラフィック転送が正常に行われない問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER004

APLGS-10102-RC008

内容 Syslog 機能において、Syslog サーバーを IPv6 で登録した場合に、指定したサーバーに Syslog が出力されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10101-ER001

APLGS-10102-RC009

内容 装置に設定した IP アドレスとは異なるネットワーク上の IP アドレスを持つ TFTP サーバーに対して、ファームウェアや設定ファイルのアップロード、及びダウンロードを実施できない問題を修正しました。

関連 APLGS-10101-ER002

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10102-ER001

内容 UDP 宛先ポート番号が 64516 の UDP パケットに対して、ACL の DENY ルールでブロックできない問題があります。

対象 Ver.1.01.02

修正 Ver.1.01.03 (APLGS-10103-RC002)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER018~ER044

APLGS-10100-ER005~ER007

APLGS-10101-ER003, ER004

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003, NT004

APLGS Ver.1.01.01 リリース情報(2019年11月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10101-RC001

内容 ファンを実装する機器において、ファンの高速回転、低速回転の移行を示すログが出力されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER001

APLGS-10101-RC002

内容 PoE 対応機器において、本体の LED 表示を PoE モードに切り替えた際に、PoE 給電を停止したポートの LED が点灯状態になる問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER002

APLGS-10101-RC003

内容 コンボポートにおいて、光ポートがリンクアップしている状態に対応する UTP ポートの状態を無効に変更すると、光ポートがリンクダウンする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER002

APLGS-10101-RC004

内容 SNMP マネージャーからスイッチの MIB に書き込み操作を行う場合に、ifAdminStatus の値を変更しても、Web インターフェース上で反映されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER003

APLGS-10101-RC005

内容 複数の VLAN に IP インターフェースを割り当てた際、無効な Connected ルート情報を内部的に使用してしまう問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER004

APLGS-10101-RC006

内容 SNMP マネージャーから所定の不適切な MIB 値にアクセスした場合に、スイッチがハングアップする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER005

APLGS-10101-RC007

内容 アクセスコントロールリスト(ACL)機能において、WEB インターフェース上の設定画面から L2 タイプの ACL ルールを新規登録、変更できない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER006

APLGS-10101-RC008

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、認証失敗のログが出力されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER007

APLGS-10101-RC009

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、登録したローカルユーザーのユーザー名の大文字と小文字を区別しない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER008

APLGS-10101-RC010

内容 新規登録した VLAN に対して IP インターフェースを有効にし、IP アドレスを設定した場合に、デフォルト VLAN の IP インターフェースを無効にすると、スイッチからの一部の自発パケットが送信されない問題を修正しました。
装置の自発パケットは、送信する IP インターフェースの IP アドレスを送信元アドレスとして使用します。

関連 APLGS-10000-ER009

APLGS-10101-RC011

内容 複数の IP インターフェース間で競合する IP アドレスを設定できる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER010

備考 Ver.1.01.00 以前のファームウェアで競合する IP アドレスが設定されている場合は、バージョンアップを実施しても設定は引き継がれます。競合する IP アドレスが設定されている IP インターフェースがいずれも有効の場合の動作は不定です。

APLGS-10101-RC012

内容 IGMP スヌーピング機能において、設定したエージング時間（クエリア機能が有効の場合は、算出されたエージング時間）よりも短い時間でエージング処理が行われる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER011

APLGS-10101-RC013

内容 IGMP スヌーピング機能において、クエリア機能を無効にすると、高速離脱機能が無効であっても IGMP 離脱メッセージを受信するとただちにポートがメンバーから除外される問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER013

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10101-ER001

内容 Syslog 機能において、Syslog サーバーを IPv6 で登録した場合に、指定したサーバーに Syslog が出力されない問題があります。

対象 Ver.1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC008)

APLGS-10101-ER002

内容 装置に設定した IP アドレスとは異なるネットワーク上の IP アドレス(つまり、通信するためにはルーターなどのレイヤー3 機器を中継する必要がある IP アドレス)を持つ TFTP サーバーに対して、ファームウェアや設定ファイルのアップロード、及びダウンロードが実行できない問題があります。

対象 Ver.1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC009)

APLGS-10101-ER003

内容 ApresiaLightGS152GT-SS において、ミラーリングの設定を実施すると装置が異常状態になる問題があります。

対象 Ver.1.01.01 ~ 1.01.02

修正 Ver.1.01.03 (APLGS-10103-RC001)

APLGS-10101-ER004

内容 Web UI の操作でマルチキャスト VLAN プロファイルを登録上限数まで登録できない問題があります。

対象 Ver.1.01.01 ~ 1.02.01

修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC011)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER012, ER014~ER044

APLGS-10100-ER003~ER007

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003, NT004

APLGS Ver.1.01.00 リリース情報(2019年6月)

○ 機能サポート

本バージョンで追加した機能の詳細は、関連する「ハードウェアマニュアル」「ユーザーズガイド」も併せてご参照ください。

APLGS-10100-RC001

内容 対応する製品を追加しました。詳細は「ハードウェアマニュアル」および巻頭の「適用機種一覧」及び「対応バージョン」一覧をご確認ください。

関連 -

APLGS-10100-RC002

内容 技術サポート情報を取得する機能を実装しました。

関連 -

APLGS-10100-RC003

内容 ループを検知した際にログを出力する機能を実装しました。

関連 -

APLGS-10100-RC004

内容 マンションモード機能において、ポート設定を行うユーザーインターフェースを変更し、アップリンクポートを簡単に設定できる機能を追加しました。

関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10100-RC005

内容 ポートアクセス制御機能において、クライアントの 802.1X 認証処理中に対象ポートにクライアントの MAC アドレスをスタティックユニキャスト MAC アドレスとして登録すると、スイッチがハングアップする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER001

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10100-ER001

- 内容 ファンを実装する機器において、ファンの高速回転、低速回転の移行を示すログが出力されない問題があります。
- 対象 Ver.1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC001)

APLGS-10100-ER002

- 内容 PoE 機能に対応する機器において、本体の LED 表示を LINK/ACT モードにした状態で、PoE 給電を停止した後に LED 表示を PoE モードに切り替えると、LED が点灯したままの状態になる問題があります。
- 対象 Ver.1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC002)

APLGS-10100-ER003

- 内容 TELNET/SSH のコマンドでアカウント削除を実行すると、スイッチがフリーズして再起動する問題があります。
- 対象 Ver.1.01.00 ~ 1.01.01
- 修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC006)

APLGS-10100-ER004

- 内容 リンクアグリゲーションのポート追加、削除などを実行した場合に、変更したメンバーのポートでトラフィック転送が正常に行われない問題があります。設定が保存されていると再起動後でも復旧しません。この状態になった場合、装置内部の情報テーブルをクリアするために WEB UI の[ネットワーク]>[マンションモード]で、マンションモードのグローバル設定を[有効]から[無効]に変更して[適用]をクリックする操作を実行すると事象が解消されます。当該設定が無効の場合は、一度[有効]に変更して[適用]をクリックしてから上記の操作を行ってください。
- 対象 Ver.1.01.00 ~ 1.01.01
- 修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC007)

APLGS-10100-ER005

- 内容 PoE 給電機能を備える機種において、所定の期間の電源断（瞬停）が発生した場合に、装置の再起動後に PoE 給電が動作しない問題があります。
- 対象 Ver.1.01.00 ~ 1.01.04
- 修正 Ver.1.02.00 (APLGS-10200-RC007)

APLGS-10100-ER006

内容 PoE スケジューリングがポートの割り当て順で 10 個までしか動作しない問題があります。

対象 Ver.1.01.00 ~ 1.02.01

修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC009)

APLGS-10100-ER007

内容 技術サポート情報のカウンター情報で負の数字が表示されることがある問題があります。

対象 Ver.1.01.00 ~ 1.02.01

修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC010)

前バージョンから未修正の問題

APLGS-10000-ER002~ER044

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

前バージョンから未修正の注意事項

APLGS-10000-NT003~NT005

APLGS Ver.1.00.00 リリース情報(2019年1月)

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10000-ER001

内容 ポートアクセス制御機能において、クライアントの 802.1X 認証処理中に対象ポートにクライアントの MAC アドレスをスタティックユニキャスト MAC アドレスとして登録すると、スイッチがハングアップする問題があります。

対象 Ver.1.00.00

修正 Ver.1.01.00 (APLGS-10100-RC005)

APLGS-10000-ER002

内容 コンボポートにおいて、光ポートがリンクアップしている状態で、WEB 画面から対応する UTP ポートの状態を有効から無効に変更すると、光ポートがリンクダウンする問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

回避策 本事象の有効な対策はありません。対象となる光ポートのケーブル抜挿、あるいは光ポートの状態を一度無効にして再度有効することで復旧します。

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC003)

APLGS-10000-ER003

内容 SNMP マネージャーからスイッチの MIB に書き込み操作を行う場合に、ifAdminStatus の値を変更すると、スイッチの実動作には反映されるものの、Web インターフェース上の[ネットワーク] > [ポート設定]の設定値には反映されない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC004)

APLGS-10000-ER004

内容 複数の VLAN に IP インターフェースを割り当てた際、VLAN インターフェースがダウン、あるいは IP インターフェースが無効であっても、そのルート情報 (Connected) を内部的に使用してしまい、正常な経路情報が適用されない問題があります。例えば、初期 IP アドレスを変更せずにデフォルト VLAN をダウンにした場合、当該 IP インターフェースの経路情報 (10.0.0.0/8 の Connected ルート) はルートテーブルから除外されるべきですが、内部的に有効の状態のままです。そのため、デフォルトルートが登録されていても、10.0.0.0/8 の経路に対しては適用されず、対象 IP アドレスを持つホストに対して通信できなくなります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC005)

APLGS-10000-ER005

内容 SNMP マネージャーから所定の不適切な MIB 値にアクセスした場合に、スイッチがハングアップする問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC006)

APLGS-10000-ER006

内容 アクセスコントロールリスト (ACL) 機能において、WEB インターフェース上の [セキュリティ] > [アクセスコントロールリスト] > [ACL 詳細設定] の設定画面から、L2 タイプの ACL ルールを新規登録、あるいは変更できない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC007)

APLGS-10000-ER007

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、認証失敗のログが出力されない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC008)

APLGS-10000-ER008

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、登録したローカルユーザーのユーザー名の大文字と小文字を区別しない問題があります。例えば、ユーザー名とパスワードが「USER」というユーザーが登録された場合、ユーザー名「user」、パスワード「USER」という認証アクセスでも成功します。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC009)

APLGS-10000-ER009

- 内容 新規登録した VLAN に対して IP インターフェースを有効にし、IP アドレスを設定した場合に、デフォルト VLAN の IP インターフェースを無効にすると、スイッチからの一部の自発パケットが送信されない問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC010)

APLGS-10000-ER010

- 内容 複数の IP インターフェース間で競合する IP アドレスを設定できる問題があります。対象の IP インターフェースがいずれも有効の場合の動作は不定です。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC011)

APLGS-10000-ER011

- 内容 IGMP スヌーピング機能において、設定したエージング時間（クエリア機能が有効の場合は、算出されたエージング時間）よりも短い時間でエージング処理が行われる問題があります。これにより、マルチキャストノードから IGMP レポートを毎回正常に受信できていたとしても、IGMP レポートを受信する直前の数秒間マルチキャストパケットが転送されなくなることがあります。
- ロバストネス変数を 1 もしくは 2 増加させることで、本事象によるマルチキャストトラフィック転送停止の影響を抑えることができます。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC012)

APLGS-10000-ER012

- 内容 IGMP スヌーピング機能において、クエリア機能を有効にした場合に、最大応答時間を 13 秒以上に設定すると、IGMPv3 クエリーで誤った値を通知してしまう問題があります。この場合、マルチキャスト通信は正常に行われません。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.04.00
- 修正 Ver.1.04.01 (APLGS-10401-RC006)

APLGS-10000-ER013

- 内容 IGMP スヌーピング機能において、クエリア機能を無効にすると、高速離脱機能が無効であっても IGMP 離脱メッセージを受信するとただちにポートがメンバーから除外される問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.00
- 修正 Ver.1.01.01 (APLGS-10101-RC013)

APLGS-10000-ER014

内容 IP アクセス制限を有効にした場合に、装置へのアクセスとインターフェースの状態確認処理が同時に行われると、デッドロックにより WEB UI へのアクセス処理など装置の CPU 処理を必要とする機能が使用できなくなる問題があります。例えば、同時に複数の WEB UI アクセスが行われた場合や、WEB UI での操作と SNMP コマンドによる状態確認が同時に行われた場合に、発生する可能性があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC002)

APLGS-10000-ER015

内容 UDP 宛先ポート番号が 64516 の UDP パケットを装置が受信した際に、他のポートに転送しない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC003)

APLGS-10000-ER016

内容 デフォルト VLAN 以外の VLAN インターフェース上に IP アドレスを設定し、当該 IP アドレスに対して WEB 管理画面にアクセスした場合に、DHCP スヌーピング機能の信頼ポートを無効に設定できない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC004)

APLGS-10000-ER017

内容 TELNET/SSH でコマンドを実行した際の一部のエラーメッセージが日本語で出力される問題があります。WEB UI の言語設定を日本語に選択している場合に発生します。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.01

修正 Ver.1.01.02 (APLGS-10102-RC005)

APLGS-10000-ER018

内容 音声 VLAN 機能を有効にした場合に、音声 VLAN に指定した VLAN をスタティックでタグなし VLAN として割り当てたポート間の通信において、入力したタグなしフレームがタグ付きフレームで転送される問題があります。例えば、初期設定から音声 VLAN 機能を有効にしてデフォルト VLAN を音声 VLAN として指定すると、入力フレームはスイッチングの際にタグ付きフレームとして他のポートに転送されます。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03

修正 Ver.1.01.04 (APLGS-10104-RC001)

APLGS-10000-ER019

- 内容 プロトコル VLAN 機能において、以下の問題があります。
- (1) プロトコル VLAN で識別されたタグなしフレームを、タグなし VLAN として割り当てたポートに転送する際に、VLAN タグ付きフレームで出力される問題。
 - (2) プロトコル VLAN プロファイルで指定したフレームタイプが、受信フレームの識別の際に Ethernet II と SNAP を区別していない問題。
 - (3) プロトコル VLAN プロファイルにマッチしたフレームに対して、指定した優先度が適用されない問題 (AprasiaLightGS152GT-SS のみ発生)。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03
- 修正 Ver.1.01.04 (APLGS-10104-RC002)

APLGS-10000-ER020

- 内容 マルチプルスパンニングツリー機能において、CIST のメンバーの VLAN が割り当てられていないポートでトポロジ変更を検出した時に、コンバージェンス時間が長い問題があります。例えば、作成した VLAN を CIST 以外のインスタンスに割り当て、所定のポートにその VLAN のみを割り当てた状態とした場合に発生します。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03
- 修正 Ver.1.01.04 (APLGS-10104-RC003)

APLGS-10000-ER021

- 内容 リンクアグリゲーション設定時に、メンバーポートのジャンボフレームやフロー制御等のポート設定を変更するとスイッチがハングアップする問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03
- 修正 Ver.1.01.04 (APLGS-10104-RC004)

APLGS-10000-ER022

- 内容 LLDP 機能において、スイッチから送信する LLDP フレームのポート ID サブタイプ情報が、WEB UI 上での表示と、実際のフレームで乖離がある問題があります。
- ・ WEB UI 上の表示：ローカル(Local)
 - ・ 実際の送信 LLDP フレーム：Interface Alias
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03
- 修正 Ver.1.01.04 (APLGS-10104-RC005)

APLGS-10000-ER023

- 内容 ポートの EAP 透過の設定が有効か無効かによらず、受信した EAP 要求フレームが転送される問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.04
- 修正 Ver.1.02.00 (APLGS-10200-RC005)

APLGS-10000-ER024

内容 ApresiaLightGS152GT-SS において、ループ検知フレームの送信数が多い(1 秒間に 30 フレーム以上)場合に、装置へのアクセスが不安定になる問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.04

修正 Ver.1.02.00 (APLGS-10200-RC006)

APLGS-10000-ER025

内容 ポートアクセス制御機能において、ポート個別の設定でポート認証設定を auto に変更した状態で、グローバル設定のポートアクセス制御機能を無効にすると、該当するポートで通信が不可となる問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00

修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC002)

APLGS-10000-ER026

内容 リンクアグリゲーション機能において、メンバーポートの切断や追加などのリンクアグリゲーションの状態変化が行われた場合に、一部の通信が長期間復旧しない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00

修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC003)

APLGS-10000-ER027

内容 SSH による装置へのログイン、ログアウトのアクセスが累積すると、Telnet/SSH による装置へのアクセスができなくなる問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00

修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC004)

APLGS-10000-ER028

内容 HTTPS でのアクセスが累積すると、装置へのアクセスができなくなる問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00

修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC005)

APLGS-10000-ER029

- 内容 ACL 機能において、[ACL 詳細設定]ページで送信元/宛先ネットワークアドレスを条件とするプロファイルの L3 ACL ルールを登録する際に、特定のネットワークアドレスを指定したルールを登録できない問題があります。該当するネットワークアドレスは、そのアドレスに対して規定されたアドレスクラスのデフォルトのホストアドレス部が All 0 になるアドレスです。
- 例えば、192.168.1.0 というネットワークアドレスを指定した場合、192.168.1.0（クラス C に分類）のデフォルトのホストアドレス部（クラス C では第四オクテット）が All 0 のため、プロファイルで指定したアドレスマスクによらず、ルールを登録することができません。同様に、172.16.0.0（クラス B に分類）のデフォルトのホストアドレス部（クラス B では第三+第四オクテット）も All 0 となるため、ルールを登録することはできません。172.16.1.0 の場合はルールを登録することができます。
- 192.168.1.0/24 のネットワークアドレスに対して L3 ACL を動作させる場合、ACL 構成ウィザードを使用するか、192.168.1.1 などのデフォルトのホストアドレス部が All 0 ではないアドレスを指定してください。プロファイルで指定したアドレスマスクに応じてホストアドレス部を All 0 として扱います。例えば、192.168.1.129/24 の場合は 192.168.1.0/24 で期待される動作になります。また、192.168.1.129/25 の場合は、192.168.1.128/25 で期待される動作になります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00
- 修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC006)

APLGS-10000-ER030

- 内容 マンションモードの各ポートの設定欄の最大入力長が 32 文字に制限されており、範囲指定や複数指定を多数含む設定を実施できない問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.02.00
- 修正 Ver.1.02.01 (APLGS-10201-RC007)

APLGS-10000-ER031

- 内容 Web UI の操作によりマルチキャスト VLAN アソシエートグループでプロファイルを登録/削除する際に、所定のプロファイルが登録できない、あるいは登録されたプロファイルが意図せず削除される問題があります。
- Web UI でマルチキャスト VLAN プロファイルを作成すると、自動的に内部で識別番号が付与されます。識別番号は、使用していない若番から順番に選択されます。付与された識別番号が 33 番以降のマルチキャスト VLAN プロファイルが本事象の対象となります。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
- 修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC002)

APLGS-10000-ER032

内容 L2 ACL のルールを 65 個以上登録できない問題があります。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC003)

APLGS-10000-ER033

内容 IPv6 ネイバーの登録がエントリー上限まで行われないことがある問題があります。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC004)

APLGS-10000-ER034

内容 1 個の ACL プロファイルに登録された ACL ルールの登録数が多くなると、該当プロファイルのルール登録画面で Web UI の応答が遅くなる問題があります。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC005)

APLGS-10000-ER035

内容 ポートアクセス認証でサブリカントモードをシングルに選択した場合に、認証サーバーへの問い合わせが行われない問題があります。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC006)

APLGS-10000-ER036

内容 統計情報のエラー統計情報のカウンターが正しく表示されない問題があります。対象となるのは、入力エラー数もしくはオーバーサイズパケット数で、バージョンやジャンボフレーム設定によって誤表示される事象は異なります。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC007)

APLGS-10000-ER037

内容 ARP エージング時間を 5 分に設定すると、設定を保存しても再起動後にデフォルト値の 20 分に戻る問題があります。5 分以外の設定の場合は正常に動作します。
対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.02.01
修正 Ver.1.03.00 (APLGS-10300-RC008)

APLGS-10000-ER038

内容 Telnet/SSH による複数の同時アクセスとコマンドの操作が行われた場合の処理でリソースの解放に失敗し、同じケースが累積すると Telnet/SSH でのアクセスが行えなくなる問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.03.00

修正 Ver.1.04.00 (APLGS-10400-RC004)

APLGS-10000-ER039

内容 CPU 処理を行うフレームを大量に受信して過負荷の状態になると、負荷が解消された後も CPU 処理を必要とする管理通信やポートアクセス認証などの機能の応答が大幅に遅延する問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.03.00

修正 Ver.1.04.00 (APLGS-10400-RC005)

APLGS-10000-ER040

内容 SNTP 機能において、リンクダウン等により時刻照会のフレーム送信に失敗すると、それ以降は復旧しても時刻同期が再開されない問題があります。本事象が発生した場合、時刻モードをローカルに切り替えた後に再度 SNTP に戻すと解消されますが、その操作を繰り返すと設定次第では APLGS-10000-ER041 の問題を引き起こしますのでご注意ください。

対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.03.00

修正 Ver.1.04.00 (APLGS-10400-RC006)

APLGS-10000-ER041

内容 SNTP 機能において、SNTP サーバーのドメイン名で指定した状態で、時刻モードをローカルと SNTP で切り替える操作を約 10 回以上繰り返すと、時刻同期が正常に行われない問題があります。

対象 Ver.1.00.00 ~ Ver.1.03.00

修正 Ver.1.04.00 (APLGS-10400-RC007)

APLGS-10000-ER042

- 内容 装置が特定の IP アドレスを持つ端末に対して TCP/IP 通信ができない問題があります。この問題は、通信先となる端末が装置の IP アドレス設定とは異なるネットワーク上の IP アドレス（つまり、通信するためにはルーターなどのレイヤー3 機器を中継する必要がある IP アドレス）を持ち、かつその IP アドレスを「装置に設定した」サブネットマスクで計算した場合にホスト部がオール 0、オール 1 になる場合に発生します。例えば、装置の IP アドレス設定が 192.168.1.1/24 で、通信先の端末の IP アドレスが 192.168.10.0 の場合、装置は通信先の端末の IP アドレスを不正とみなし、通信を行いません。通常このような通信では、装置は通信先の IP アドレスのホスト部を検証せず、デフォルトゲートウェイまでトラフィックを届ける必要があります（端末の IP アドレス設定は、例えば「192.168.10.0/22」である可能性があります。これはホスト部が 1000000000 となるため、ホストアドレスとして正常です）。
- 対象 Ver.1.00.00 ～ Ver.1.04.00
- 修正 Ver.1.04.01 (APLGS-10401-RC003)

APLGS-10000-ER043

- 内容 MAC アドレス認証において、参照する RADIUS サーバーが複数登録されている場合に RADIUS サーバーの切り替えが頻発して、認証フレームの重複や認証属性情報の消失が発生し、認証ユーザーの通信が不安定になる問題があります。この事象は、RADIUS サーバー側で RADIUS アカウンティングポートをブロックしている場合に確認されています。
- 対象 Ver.1.00.00 ～ Ver.1.04.00
- 修正 Ver.1.04.01 (APLGS-10401-RC004)

APLGS-10000-ER044

- 内容 装置の稼働時間が約 248 日を経過すると誤表示する問題があります。
- 対象 Ver.1.00.00 ～ Ver.1.04.00
- 修正 Ver.1.04.01 (APLGS-10401-RC005)

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

APLGS-10000-NT001

- 内容 ファームウェアのバックアップ機能において、バックアップ実行中に作業が中断された場合でもバックアップ成功のログ(Firmware backup successful via http.)が表示される問題があります。
バックアップ完了後は、ファイルサイズやハッシュ値をご確認ください。
- 対象 Ver.1.00.00
- 修正 Ver.1.01.00

APLGS-10000-NT002

- 内容 [設定情報] > [バックアップ/レストア] ページにおいて、本来「設定レストア」と表示すべき項目が「設定バックアップ」と誤表示されている問題があります。そのため「設定バックアップ」が当該ページで2箇所表示されますが、上方の表示は正しく、下方の表示が不正確です。
設定バックアップあるいはレストアの作業時にはご注意ください。
- 対象 Ver.1.00.00
- 修正 Ver.1.01.00

APLGS-10000-NT003

- 内容 ApresiaLightGS110GT-SS、ApresiaLightGS110GT-PoE で 1000BASE-T SFP モジュールを使用する場合、対向機器を接続した状態で装置を再起動すると、SFP ポートが有効/無効いずれの設定であっても、装置起動中に対向機器の接続ポートが約 30 秒間リンクアップします。
- 対象 Ver.1.00.00 以降
- 修正 -

APLGS-10000-NT004

- 内容 [ネットワーク] > [LLDP] > [ポート設定情報] ページにおいて、以下の誤表示の問題があります。
- ・「ポート」と表示すべき項目が「全て」と表示されている。
 - ・「ポート ID」と表示すべき項目が「ポート ID サブタイプ」と表示されている。「ポート ID サブタイプ」が当該ページでは2箇所表示されていますが、左側が正しく、右側が誤表示です。
- 対象 Ver.1.00.00 ~ 1.01.03
- 修正 Ver.1.01.04

APLGS-10000-NT005

内容	Ver.1.00.00～1.01.00 で稼働している機器からファームウェアの更新を行う場合に、Ver.1.04.00 以降のファームウェアを書き込むことはできません。Ver.1.04.00 以降のファームウェアへのバージョンアップを実施する場合には、Ver.1.01.01～1.03.00 までのいずれかのファームウェアに更新し、当該バージョンのファームウェアで装置を再起動してから、対象ファームウェアへの更新を行ってください。
対象	Ver.1.00.00 ～ 1.01.00
修正	Ver.1.01.01

ApresiaLightGS シリーズ ファームウェア
リリースノート

Copyright(c) 2019 APRESIA Systems, Ltd.

2019 年 1 月 初版

2024 年 9 月 第 13 版

APRESIA Systems 株式会社
東京都中央区築地二丁目 3 番 4 号
メトロシティ築地新富町 8 階

<https://www.apresiasystems.co.jp/>